2027年度 入学試験の出題について（各教科より）

【国語】

試験時間50分で、大問が4～5問の出題になります。
内容は物語や随筆などの文学的文章・説明文や新聞からの引用文などの説明的文章・詩歌と、まんべんなく出題しています。いずれも、小学6年生が興味を持って読むことができる、価値のある文章を選んでいるつもりです。

一般論ではありますが、受験のためのということだけでなく、いろいろな文章を読み味わうことをぜひ体験していただきたいと思います。
本校の過去問題を解いていただき、出題の形式に慣れることをお勧めしますが、ただ正解を求めるだけでなく、初めての文章を丁寧に読み取る練習も大切にしてください。
定められた字数でまとめさせる問いは引き続き出題する方向です。また、漢字書き取りの問いは例年並みとお考えください。
最後に解答用紙ですが、横書きになっています。解答の仕方に特別な注意はありません。見慣れて、書き慣れていただければ、と思います。

【社会】

社会科の出題内容は、地理・歴史・政治経済の3つの分野で構成されています。
配点はだいたい2：2：1の割合、50 点満点の 20 点・20 点・10 点の配点に近い形になります。
形式は、記号選択だけでなく、重要な語句を答えてもらう内容を含みます。

地理に関しては、日本地理が中心ですが、日本と関係の深い外国に関しては出題する可能性があります。
日本の自然環境や産業について、地図や統計資料に目を通しながら勉強してください。

歴史については、ある時代に関してというより、いろいろな時代にまたがった問題を出題することが多く、また、図や年表といった資料を用いる問題もあります。様々な視点から歴史を捉え、流れをよく整理しておいてください。

また、他に時事問題を出題しています。
傾向としては、数か月後には印象が薄れてしまうようなものではなく、小学 6 年生であっても、興味をもってほしい、知る価値のあることを出題することを心がけています。出題範囲としては、おおよそ年末までを目安としています。
普段から、身近な話題や国内外の大きなニュースに地理的・歴史的な見方ももちながら接してほしいと思います。

最後に受験生の皆さんには、解答用紙に解答を記入する際の注意点をお話します。これは全教科に共通する事です。
まず、設問の仕方に注意をしてください。正しい選択肢を選ぶのか、誤ったものを選ぶのか、たとえば「正しいものを1つ選びなさい」ならば、正しいものを 1 つだけ選び、「すべて選びなさい」の場合はその答えが2つなのか、3つなのか、いくつ選べば良いかは受験生の皆さんが判断してください。複数回答の場合は全部できて得点になります。
また、解答する際、漢字で答えるのが基本ですが、
平仮名やカタカナ指定の場合もあるので問題をよく読み、指示に従ってください。漢字の間違いは×となります。

【算数】

・試験内容に関して

例年、基本的な問題を幅広い分野から出題するようにしています。特に青山学院中等部の数学科として、ある分野を必ず出題するとは決めてはいません。出題する私たちも、小学校の教科書に書かれている内容を良く読み、受験生の皆さんが小学校で学んできたことを大切にしたいと考え、問題を作成しています。

・出題上の注意

今年の入試も例年と同じ形式で出題します。基本的に1問毎に出題しますが、問題の中には毎年数問、小問に分かれるものがあります。過去の問題を見ていただけると形式がよくわかると思います。学習指導要領で削除されている項目は原則入れません。ただし、教科書にある発展的な内容・トピックス的な内容については、出題することがあるので目を通しておいて下さい。また問題の中には小数第2位どうしの計算を出すことはあります。

問題文は、できるだけ簡潔に書いています。解く方法を惑わせるような数字などはありませんので、短い文章から必要な情報を的確に読み取ってください。

・解答について

解答用紙は、答えだけを書いてもらいます。途中式などは採点に含まれませんので、解答用紙には答えを「ていねいな数字や記号で」書いてください。そのようにしていますのは、小学生はいろいろな考え方・方法で解いて構わないと考えているからです。

毎年ていねいに書かれていない答案があり、文字や数字が判別できないことがあります。

判別できないものは不正解になりますので、十分に注意してください。

例えば、「0と6」,「7と9」がはっきりしない。

「小数点がはっきりしない」（これは毎年一番多くみられ、不正解にされます。）

「比の計算を解答用紙に逆に書き込んでいる」

「誤った答えが消しゴムできれいに消されていない。」などです。

さらに、分数が答えになる問題については、仮分数でも帯分数でもどちらで答えても正解としますが、

約分をしていないものは不正解とします。

・計算用紙について

「問題用紙」と「計算用紙」を1つの冊子にしています。

イメージとしては，問題用紙を開くと「左側のページ」には問題，「右側のページ」は計算用の白紙になります。

そのため問題の冊子のページ数が多くなります。

・最後に

算数の試験は問題数もそれなりにありますので、集中して計算ミスの無いように頑張ってください。

やさしいと思われる問題から先に並べているつもりですが、幅広く出題していますから自分の得意な問題から解くようにしましょう。ぜひ、過去問を通して問題文に十分に慣れておいてください。

また、小学校で身に付けた計算力と集中力は中等部に入学してからの力になりますので、高めておいてください。

【理科】

理科の出題の形式は、前年度と同じで5つの大問から構成されています。
各大問には、それぞれ5問ほど、小問があり、合計25問程度からなります。

出題の内容です。
1つめの大問は、高校でいう、物理・化学・生物・地学の各分野から1題ずつと、科学に関する一般常識を問う問題を1～2問出題します。残りの4つの大問は、物理・ 化学・生物・地学の4分野それぞれから、解答数・配点、ほぼ均等に出題します。2027年度も、前年度と比較して量・質ともに大きな変更はありません。

4分野とも基本的なことがらをベースにした問題が多いため、小学校で学んだことをしっかりと押さえておくことが必要です。近年の出来から見ると、どの分野も同じくらいの正答率ですが、計算問題は差がつくことが多いです。
問題に出てくる薬品・動植物・天体などは、教科書に出ているものだけではありませんが、本校の入試にしか出てこない、という特殊なものではなく、一般的な受験勉強をしていると必ず出会うものばかりです。

続いて答え方です。
答えは、文章で答える記述や、計算の途中を見るものはありません。
短い用語や、数値、選択肢の記号などを答えるものだけです。用語は社会と同じように漢字で答えるべき問題は漢字で答えるようにしてください。

なお、複数の記号などを答える場合は、「すべて」や「2つ」など解答数の指定があります。
特に指定がない場合は、答えは1つとなります。

また、数値を答える問題において、割り切れない場合は四捨五入などの指示があるので注意して答えてください。
最後に、試験に臨んでは、得意な分野や、基本的な問題を確実に答え、限られた時間の中で、自分の力を十分に発揮するよう心がけてください。